

大学入学共通テスト『情報』への期待と課題

～大学の視座から～

西郡 大(佐賀大学)

1

大学のDS教育の現状からみた「情報」

本日は「数理・データサイエンス・AI教育」を「DS教育」と総称します

2

あっという間に身近な存在になったDS教育



数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度



DS系学部の新設ラッシュ

分野を問わず、大学生の修得すべきリテラシーになってくると・・・

個人的に感じている課題

知識やスキルのバラつきが大きい

得意



不得意



3

『期待』の部分



一方で、

『大学入試』の場面からみたときに考えるべきことは何か？

4

大学入試（個別入試）を検討するための視点

5

日本型大学入試の3原則（佐々木享，1984）



- ① 大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を備えた者を
(≒APIに沿った選抜)

原則①：当該大学での学修・卒業に必要な能力・適性等の判定

- ② 公正かつ妥当な方法で選抜するように実施するとともに、
(≒公平性・公正性の確保)

原則②：受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保

- ③ 入学者の選抜のために高等学校の教育を乱すことのないように配慮する
(≒高校教育への波及効果配慮)

原則③：高等学校教育と大学教育を接続する教育の一環としての実施

6

大学入試の諸原則（倉元，2020）からの考察する



倉元（2020）
『大学入試』の誕生 金子書房

受験生保護の大原則

大学が「公正かつ妥当な方法」で選抜を行い、
「急な変更で受験準備の努力を無駄にさせない」という大学入試に求められる基本的な条件。

前提条件としての原則

- 相互関係の原則
- 継続性の原則

選抜の原則

- 公平性の原則
- 斉一条件の原則

入試設計の原則

- 募集優先の原則
- 育成の原則
- 妥協の原則

7

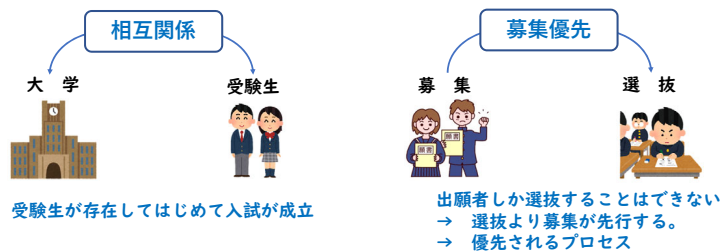
大学入試の目標（存在意義）

A P に表現された「求める学生像」に沿った学生を
定員通りに確保すること。



8

「相互関係の原則」「募集優先の原則」からみる



どんなに理想的な入試制度・方法だとしても受験してもらえなきゃ意味がない。
入試のあり方を受け入れてもらうために何が必要か？

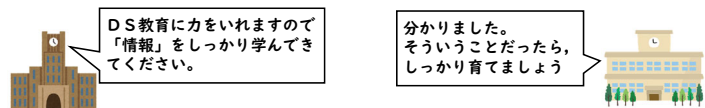
9

「育成の原則」からみる

APに沿った学生を求めるならば、その候補となる母集団を大きく育成する必要がある。

入学後にDS教育を学ぶための基本的素養を求めるならば、APに加えることになる。

大学としては、APの沿って育成してもらえるメッセージを発信することが不可欠。



高校現場に届く（受け入れられる）メッセージとは？

10

「公平性の原則」「斉一条件の原則」からみる

合格者の不満は表面化しにくい。しかし、不合格者は？

「不合格者が選抜結果に納得できるか否か」→「（不合格者からみた）納得性の原則」

多くの志願者に公平と感じられる手続き→「同一（斉一）条件」で試験を実施
特に、ハイクラスな共通テストにおいて、この「斉一条件」は不可欠

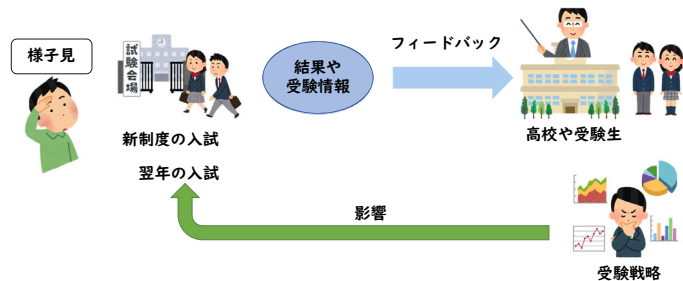
しかし、

- 地域の指導体制の相違による学習環境の問題
- 学習範囲が異なる過年度生との比較問題（初年度のみ）
- 選択科目にする場合、どの科目との選択にするか（単位数の問題） など

「情報」のみに生じる問題ではないが、新科目ゆえの不安感は無視できない。

11

「継続性の原則」からみる



入試は翌年度も続くという事実。
継続して安定的な入試を実施するための戦略が不可欠。

12

「妥協の原則」：理想と現実の摺り合わせ

相互関係の原則

募集優先の原則

斉一条件の原則

現実的には、各原則の相互関係があるし、相互矛盾も起こりがち
→ 両立しない原則のいずれをどの程度優先すべきか、状況に応じた判断が必要

妥協の原則

絶妙なバランスのうえに成り立っている
(「妥協の芸術」倉元,2014)

理想と現実の妥協の必要性

育成の原則

継続性の原則

公平性の原則

13

各大学の公表状況からみる様々な苦慮と工夫

【国立大学協会の基本方針】

全ての国立大学は、「一般選抜」においては第一次試験として、高等学校等における基礎的教科・科目についての学習の達成度を測るため、原則としてこれまでの「5教科7科目」に「**情報**」を加えた**6教科8科目**を課す。

■ 必須科目として新規に加える

- 素点(100点)をそのまま使う
- 素点(100点)に傾斜をかける
- 配点化せず(総合評価, 合否ボーダーでの活用等)。

■ 選択科目の1つにする

多くの大学が
様子をみながら最適な
方法を模索している状況



14

他にも考えておかなければならないこと

- 共通テストの重量化(科目数, 出題範囲, 文章量の増加など)
- 18歳人口の減少により, 受験競争圧力は, 急激に低下している。
- 「重量化」+「受験圧力の低下」⇒「基礎学力の空洞化」を招かないように注意が必要。
- 仮に, 上記のような空洞化が生じるならば, 個別試験の在り方を考えなければならない。
- 苦しくなる学生確保に伴い, 一般選抜→特別選抜(年内入試)への移行が進む可能性大。
共通テストを課す受験者と課さない受験者の学習準備状況をどう捉えていくか。



「情報」の導入に伴い, 大学のDS教育の加速が期待される一方, 入試という側面から見れば, 全体のバランスの中で「情報」を位置づけ, 「妥協の芸術」をどう描くかが腕の見せどころ。

15

ご清聴ありがとうございました



16